

平成20年度白子小学校研修計画

1 研究主題

「わかる・楽しい国語・算数の授業をめざして」

普段の授業を改革して、子どもたちに確かな学力を
教科・領域・・・国語，算数

2 主題設定の理由

昨年度までの2年間、「感性の育て方」について研究してきた。その中で、感動体験や表現活動・交流活動の重要性や、感性が、学習意欲はもちろん人間のあらゆる行動を起こす根本の部分であること、また、雲や虹の姿など一見勉強に関係のないことのなかに、感性を育てる上で大切な見方・考え方がかくされていることなどがわかった。

一方、昨年度の研修の反省では、各クラスで2，3名、「学習の理解に時間がかかる子」に対する指導をどのようにすればよいのかが課題として挙げた。そのような子どもたちをはじめ、すべての子どもたちの学力を保障することは、学校の仕事の中で、一番大切な部分である。

そこで、今年度は、昨年度も行ってきた「普段の授業を大切にする取り組み」をバージョンアップした学力保障対策の研究を進める。

「学力保障」対策の中身として最も大切に考えたいことは、毎日行われている普段の授業の改善である。子どもたちとともに取り組む日々の授業の多くが、今以上にわかりやすく・楽しくなれば、子どもたちの学習意欲も向上し、基礎的な知識の定着にもつながると考えるからである。反復学習や居残り勉強、テスト漬けなどの対策に走るのではなく、子どもたちの目の本当の輝きを大切にすした学力保障対策を考えていきたい。

本当の学力をつけさせるためには、「毎日の普段の授業の質を高めること」と「子どもたちの集団作りを進めること（人権教育）」が必要だと考える。（車の前輪と後輪の関係）

また、「普段の授業がわかりやすい」と「学校は楽しくなってくる」の相関も確かにあると考えられる。

教師である私たちが行う普段の授業を今以上にわかりやすく・楽しくなるよう工夫することによって、子どもたちの学習意欲や理解力・思考力が向上し、よりいっそう学校が楽しくなることを願って、本研究主題を設定する。

3 研究の基本的な考え方

教師たる者の願いは、

子どもたちに**本当の学力**をつけさせてあげたいということ。

ペーパーテストで計れる学力・・・読み取り，漢字，計算など（いわゆる知識理解）

〃 で計れない学力・・・音読や朗読，考えようとする，聞こうとす

る意欲や態度など（表現力・思考力・関心意欲）

一番大事なのは、子どもたちに勉強したい、かしこくなりたいと思う気持ちを起こさせること（学習に対する関心・意欲・態度、自ら学ぼうとする力）

毎日行われている**普通の授業**を、子どもたちにとって**楽しく**、**わかりやすいもの**にすることが大切。（学習理解に時間がかからない子、かかる子、すべての子どもにとって）

普通の授業が楽しくわかりやすくなると、子どもたちは勉強が面白くなる。学校が楽しくなる。かしこくなりたいと思う気持ちが強くなる。

一人一人の教師の**力量**にかかっている。

教師の普通の授業の教え方（自分に染みついたやり方）をもう一度考え直す必要がある。（教師の自己変革）

普通の授業をみんなで見せ合い、**自分の教え方を改善**していく。

楽しい授業とは、「できた」「わかった」「発表できた」という達成感を味わう授業や、友達の考えを聞いて自分がより深く考えられた、自分の考えが変わったという充足感を感じる授業など。（「おもしろい発言があった」、「笑いが多かった」などではない。）

わかる授業とは、子どもたちが「あ、そうか」「なるほど」「そうやったらいんだ」と実感できる授業のこと。授業展開の中で、子どもにしっかり考えさせた（悩み抜かせた）上での「わかった」も当然ありうる。

4 本年度の指導の重点

- （１）毎日の普通の授業をわかりやすく、楽しくなるように工夫する。
- （２）豊かな体験ができる地域学習を継続推進する。（感性教育の面でも有効）

5 研究内容及びその手だて

（１）普通の授業を改革するための取り組み

全体授業研究 年 1 回

- ・各学年、とびうお学級が授業公開する。
- ・指導主事または講師を招聘する。
- ・指導案は本時案中心に作成する。
- ・授業は 4 5 分間を原則とする。

- ・事後研修会を行い，学年授業研究と同じ視点，プラス「感性を育てる視点」で研究協議をする。（手立て ～ の一つでも取り入れる）

感性を育てる手立て

体験をさせる。
 イメージさせる。想像させる。
 ささいな変化に目を向けさせる。
 文章表現の面白さに気づかせる。
 五感を研ぎ澄ませる意識を常に持たせる。
 自分の好きなことを見つけさせる場をつくる。
 子どもの感情に訴える。
 驚きを大切に。
 表現させる。
 みんなで交流する。

学年授業研究 年 1 回以上

- ・学年で相談して，どの単元部分を授業するか決める。（必ず普段よく行う授業場面を取り上げる。 **例** 普段の漢字指導，音読指導，作文指導，算数指導など）
- ・指導案は本時略案とする。
- ・学年全員が授業を行い，学年全体で参観する。
- ・授業日時は全職員に知らせ，他学年でもできる限り参観する。
- ・授業は 4 5 分間でなくてもよい。
- ・参観の視点 すべての子どもにとって，わかりやすい授業であったか。楽しい授業であったか。
- ・わかる，楽しい授業のために気をつけなければならないことを研究対象とする。
 - * 教態（教え方の自分のくせ 発声 言葉 視線 表情 立ち位置など）はどうか。
 - * 発問・指示，授業の組み立てなどはどうであったか。
 - * 子ども同士の学び合いはどうであったか。（人権教育の視点も含む）
 - * 一人一人の児童理解の仕方。
 - * 授業の基本 5 項目。授業力を上げる 5 0 の心得。
- ・参観後，話し合いの時間を持つ。全クラス必ず持つ。
- ・授業者の良いところを学ぼうとする姿勢と，遠慮なく批評し合おうとする姿勢を持つ。
- ・授業から学んだことを学年でまとめて用紙に記入して提出。後で全体で交流会。
- ・学年全体の子どもを学年全員の教師で見ていくという視点でも有効。
- 子どもたちの実態把握，研究成果の把握**
- ・子どものノートや学習感想，普段の小テストや単元末テスト，5 年 C R T テスト，6 年全国学力調査など
- ・今もやっている学校アンケート（子ども向け・保護者向け）

- ・教師の手応え（腹の底からの実感）（子どもの様子や成果物）

その他の学力保障対策として

反復学習を、適切に授業や朝学習に取り入れる。

（教師による読み聞かせは昨年通り約一ヶ月に1回）

補充学習 のびっ子タイム（6月より実施予定 年8回ほど）

全学年対象 1, 2年 月曜（4限授業）放課後

3～6年 月曜（5限授業）放課後

クラブのない日で、1～6年で同じ日を設定する。

希望者のみ参加（但し、下校時間が遅くなるので、4月に保護者へ案内文書を）
わからない勉強を教師に聞く。時間は30分程度。

学年を一つの教室に集めて指導。専科は、人数が多い学年へ応援に行く。

夏休み宿題相談教室（3年生以上）

今まで同様に少人数授業，TT授業，学習ボランティアの活用を続ける。

スマートボードやインターネットの授業への活用を推進する。

（2）豊かな体験ができる地域学習の取り組み（感性教育の面でも、きわめて有効）

白子の特色を生かし、地域との関わりを大切にした学習を行う。

（俳句・墨・伊勢型紙・白子の海と川・地域の歴史など）

昨年度同様、生活単元や国語、生活、総合の時間などで取り組む。

学期を絞って重点的に取り組んでもよい。

「白子小祭り」につながる

今年度の生活単元・生活科・総合も昨年度と同様に体験や表現を大切にしながら
学習を進めていく。

生活単元・生活科・総合の年間計画・・・学校カリキュラムをもとに作る

6 今年度の月別研修計画

- 4月 全体研修計画完成
- 5月 「わかる授業」，「楽しい授業」などの共通理解（講師招聘）
- 6月 研究授業（1本）とびうお学級
- 7月 "（1本）（講師招聘）
- 8月 夏期校内研修会（1学期学年授業研究の交流会 スマートボードを
使った授業のやり方 など）（講師招聘）
- 10月 研究授業（2本）（講師招聘）
- 11月 "（2本）（講師招聘）
- 12月 "（1本）（講師招聘）
- 1月 研修の反省（学年）
- 2月 "（全体）
- 3月 研究集録完成